

第3回 高松港港湾脱炭素化推進協議会 議事概要

1. 日時

令和6年1月29日（月） 10時30分～11時30分

2. 場所

かがわ国際会議場

3. 出席者

香川大学創造工学部 玉置准教授、香川大学創造工学部 山本助教、株式会社谷グリーンエネルギー研究所 谷代表取締役、株式会社日本政策投資銀行 八方次長兼企画調整課長、高松商運株式会社、日本通運株式会社四国支店、ジャンボフェリー株式会社、四国汽船株式会社、雌雄島海運株式会社、四国ドック株式会社、株式会社マキタ、泉鋼業株式会社、株式会社タダノ、イヌイ株式会社高松工場、高松帝酸株式会社、四国電力株式会社、四国ガス株式会社高松支店、大同ガス産業株式会社、出光興産株式会社、湊海運株式会社、香川県旅客船協会、高松港運協会、香川県倉庫協会、（一般社団法人）香川県トラック協会、香川県冷凍事業協会、朝日町石油基地共同防災対策協議会、高松商工会議所、経済産業省四国経済産業局、環境省中国四国地方環境事務所四国事務所、国土交通省四国地方整備局、国土交通省四国地方整備局 高松港湾・空港整備事務所、香川県環境森林部、香川県土木部、高松市環境局ゼロカーボンシティ推進課、香川県（事務局）、坂出市（事務局）

4. 議事概要

（1）会議の公開について

香川県情報公開条例に基づき、本会議を非公開とした。

（2）高松港港湾脱炭素化推進計画（素案）について

事務局より、高松港港湾脱炭素化推進計画（素案）の取りまとめ内容について説明し、了承された。

【主な意見】

- ・他港の計画に比べ、実効性の高い計画になっていると思う。
- ・高松港が競争力の高い港となるため、将来的には国土交通省が試行している「CNP 認証（コンテナターミナル）制度」を活用していただきたい。
- ・長期的な計画であるため、各取組の導入効果を検証し、計画の見直しに反映してほしい。
- ・カーボンニュートラルは未経験の課題であるため、目的を忘れず、柔軟に対応する必要がある。

- ・広域的な連携について、瀬戸内海を次世代エネルギーの道として、西日本全体で取り組むことが大切である。
- ・高松港の背後にはコンビナートはないが、市民が集うエリアがあり、市民生活の中にクリーンエネルギーの利用が広がることで、他港との差別化や付加価値の創出につながると考える。
- ・長期的な計画であり、今後の計画の見直しで継続すべき取組みや転換すべき取組みの判断が必要となってくる。その際、複数の事業者が進める取組みについて、カーボンニュートラルの方向性についての共通認識を持つことで、話が前に進みやすくなる。

(3) その他

高松港港湾脱炭素化推進計画策定後の協議会の進め方について協議した。